

源九郎稲荷の説話

源九郎稲荷の中川さんは、やっぱり話がお上手ですね。先日も案内の時にこうおっしゃった。

ここは、お稲荷さんですから、神社に居られるのは狐さん。しかもこの狐、名前がある。「源九郎狐——」。ところで源九郎という有名な歴史上の人が居ました。そう、あの源義経。義経は平家と戦って活躍した武将なのですが、野育ちの田舎者だから、都の公家や鎌倉の頼朝公に囲まれて苦労した。そんな時義経の助けたのが、幼いころから一緒だった一匹の白狐、そこで義経はこの白狐に「源九郎」の名前を与えたということです。

「——で、何でその源九郎狐がこの郡山に居られるか、時代が変わってこの郡山で百万石の領主となってお城を造られたのが、戦国時代の豊臣秀長さん。この方はもちろん秀吉の弟で、豊臣家は尾張中村の百姓の出だから家の守護神、守り神といったものが元から無い。(そういえば、藤原氏は春日の神、源氏は八幡さん、平家はなんだっけ、平清盛は色好みだから厳島の弁天さんか)

そこで、神社の隣にある洞泉寺の宝誉上人に相談したら、『吉野に源義経公の守護神だった源九郎狐が居られます。この狐をお城の巽の方角にお祀りしたら、必ずやお城を守ってくれるはず——』と、おっしゃった。

で、秀長さんがこの神社を建てて、源九郎狐を吉野からお迎えしたと、こうわけです」

うーん、なるほど、確かに源九郎稲荷はお城の巽の方角、この神社の起源説話はバリエーションがいろいろあるけど、これが本家本元、神社推奨の話ですか——。

